

**製品名:** リン酸化 PKA  $\alpha/\beta/\gamma$  (Thr197) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab00837

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 40 kDa; Observed MW: 40 kDa

## 抗原情報

遺伝子名	PRKACA/PRKACB/PRKACG
別名	PRKACA; PKACA; cAMP-dependent protein kinase catalytic subunit alpha; PKA C-alpha; PRKACB; cAMP-dependent protein kinase catalytic subunit beta; PKA C-beta; PRKACG; cAMP-dependent protein kinase catalytic subunit gamma; PKA C-gamma
遺伝子 ID	5566/5567
SwissProt ID	P17612/P22694/P22612
免疫原	抗血清は、Thr197 のリン酸化部位周辺のヒト PKA CAT 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 166-215

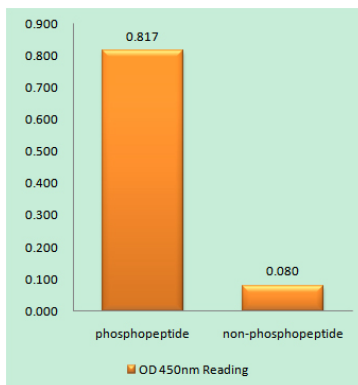
## 背景

PRKACA (プロテインキナーゼ cAMP 活性化触媒サブユニット  $\alpha$ ) は、プロテインキナーゼ A の触媒サブユニットの 1 つをコードします。この酵素は、不活性状態では、2 つの調節サブユニットと 2 つの触媒サブユニットからなる四量体ホロ酵素として存在します。cAMP は、不活性型ホロ酵素を 4 つの cAMP と 2 つの遊離単量体触媒サブユニットに結合した調節サブユニットの二量体へと解離させます。ヒトでは、4 つの異なる調節サブユニットと 3 つの触媒サブユニットが同定されています。プロテインキナーゼ A による cAMP 依存性タンパク質リン酸化は、分化、増殖、アポトーシスなど、多くの細胞プロセスにとって重要です。この遺伝子の恒常的活性化は、体細胞変異、またはこの遺伝子を含む領域のゲノム重複によって引き起こされ、副腎皮質の過形成および腺腫と関連しており、副腎皮質刺激ホルモン非依存性クッシング症候群にも関連付けられています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。N 末端が異なる組織特異的なアイソフォームが報告されており、これらのアイソフォームは、一部のアイソフォームの N 末端で起こる翻訳後修飾が異なる可能性があります。

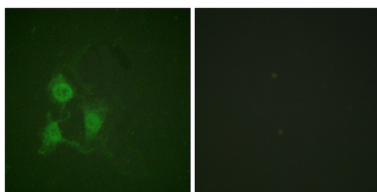
## 研究分野

シグナル伝達

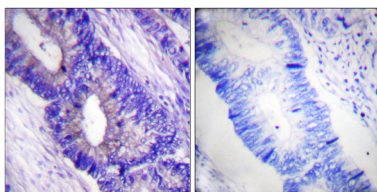
## 画像データ



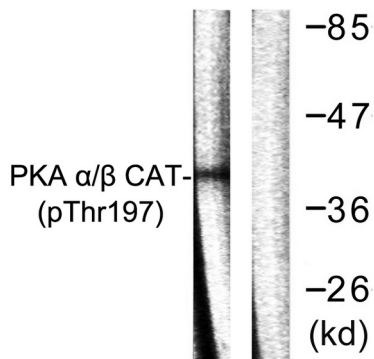
PKA CAT (リン酸化 Thr19 抗体) を用いた、免疫原リン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



A549 中のリン酸化 PKA  $\alpha/\beta/\gamma$  (Thr197) 抗体を用いた免疫蛍光染色によるリン酸化 PKA  $\alpha/\beta/\gamma$  (Thr197) の解析。右の画像はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



リン酸化 PKA $\alpha/\beta/\gamma$  (Thr197) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗原賦活化には、高压高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用した。右側はブロッキングペプチドを添加したサンプル。



マウス脳溶解物中の Phospho-PKA alpha/beta/gamma (Thr197) 抗体を使用した、Phospho-PKA alpha/beta/gamma (Thr197) のウェスタンプロット分析。右側のレーンは、合成されたペプチドでブロックされています。